

◆特集◆ ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト～これからの里山づくり～

今回は、地域コミュニティビジネスで注目を集めている、梅内聚落の市民団体「ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト」(安井重雄代表)にお話を伺いました。

まずは団体について御紹介します。

当プロジェクトは、御先祖や先輩たちが育んでくれた森林資源を次世代に残すため、聚落林や個人有林の適切な管理を進めていきたいという強い思いで平成24年に結成しました。

具体的な活動内容を教えてください。

最初に取り組んだのが「木の駅プロジェクト」です。間伐等によって出る林地残材を、チップ材として能代火力発電所などに出荷しました。それからまき販売として「薪の駅プロジェクト」を始めました。今、ニツ井では高齢者を中心にまきストーブの需要がふえているのです。供給も追いついていない状況です。



取材に御協力いただいた船山さん、安井さん、野呂さん(左から)

ではなく、会員共同で行うこと。作業後にみんなで一杯やるとか、楽しみながらやっています。働く場の確保にもつなげたいですね。

地域通貨があるようですが、どのようなものですか。

会員には労働の対価として地域通貨「宝券」を発行し流通させています。現在ニツ井地域内の23の協賛店舗が加盟しています。年々利用実績はふえていますね。

地域資源から生まれたお金を、地域内で回す。すてきな取り組みですね。市や県の補助金も有効に活用されているそうですね。

市のまちづくり活動支援事業を活用して、講演会を開催したり、まき割り機を導入したりしています。使い勝手がよくて助かっています。

山菜ビジネスについてもお聞かせください。

伐採跡地には、ワラビなどの山菜が群生するのです。山菜倶楽部を発足させ、県の支援も得ながら、千葉県への出荷を始めました。

山の手入れを進めることで、熊対策にも期待が持てそうですが、いかがですか。

ここ梅内地域は猿の被害のほつが多いので、もちろん獣害対策にも寄与するでしょう。

今後の活動ビジョンをお聞かせください。

ニツ井小学校の子供たちとの里山学習や、一般の方を対象としたまきづくり体験を定期的に行っていますが、継続していきたいですね。課題は若者の参画です。将来的には若者が定住したいと思える地域づくりに取り組みたいものです。

また、道の駅ふたついに導入されたまきボイラーに、まきの供給を始めました。直売所では、丸太ストーブの「燃え杉くん」、木工品、山菜などの販売をしています。今後は道の駅でも販売していきたいです。



梅内山菜倶楽部の皆さん



道の駅ふたついに導入されたまきボイラー

地域コミュニティの再生、里山保全、林業振興。そういった地域課題を解決するヒントがたくさんありそうなプロジェクトでした。取材に御協力いただき、ありがとうございました。

取材：安井英章 大高翔 落合康友